

令和5年笛吹市議会第3回定例会の告示に伴う
記者会見質疑応答（要約）

■記者

いちのみや桃の里ふれあい文化館の改修についてお伺いします。
空調、照明、吊り天井のそれぞれの改修工事の内容について教えてください。

■財政課長

今回の補正案件につきまして、先ほどのご質問の中で、吊り天井の他に空調と照明の話がありました。今回は吊り天井の関係が補正案件となります。
こちらは、東日本大震災の際に吊り天井の問題が出ましたが、この施設につきましては、まだ改修を行っていませんでしたので、ここで改修をするために補正計上いたしました。

■記者

ありがとうございます。
この吊り天井は取ってしまうということでしょうか。

■財政課長

こちらに関しましては、基本的には固定をするような形で考えております。

■記者

落ちないように固定するということですね。

■市長

ホールなので、吊り天井は取らないと思います。
補強する感じになると思います。

■記者

分かりました。補強するということですね。
工事費について債務負担行為の設定を行っていますが、これは吊り天井分のみで、空調、照明は含まないということでしょうか。

■財政課長

今回の補正に関しましては、吊り天井のみになります。
空調及び照明につきましては、既に債務負担行為を設定しております。

■記者

工事場所は、先日の多目的芝生グラウンドの説明会を行ったところですか。

■市長

その通りです。

■記者

分かりました。ありがとうございました。

■記者

2点ほどお伺いします。

まず、川中島合戦絵巻の角田さんのことに関してですが、角田さんを選ばれた理由と、今回角田さんに対してどのような信玄公像を期待されているかお伺いします。

■市長

角田さんを選んだ理由は、角田さんが山梨に少しゆかりがあり、山梨の皆さんに少しでも恩返しをしたいとおっしゃっていたのでご依頼したところ、大変好意的な形でお引き受けしていただきました。

どのような信玄公像ということですが、担当者も同席しているのであまり違っていてもいけません、私のイメージとしましては、大変な空手家であり格闘家でありますので、勇ましい、エネルギーが豊富な武田信玄公を是非とも演じていただきたいと思います。

■記者

併せての質問になりますが、山梨にゆかりがあるということで武田信玄公役に角田さんが選ばれたということですが、これまでは、ふるさと納税の高額納税者である一般市民の方から選ばれていたかと思いますが、今回角田さんが選ばれ、著名人にされた理由というのがありますか。

■市長

その点につきましては、資料を調べると分かりますが、信玄公役は、今まで市議会の議長ですとか、市長、商工会長なども演じており、いろいろな方が信玄公をやられています。特にふるさと納税寄附金の高額納税者に絞っていたというつもりはなく、ふるさと納税寄附金を少しでも推進させるためという意味でやっていた部分はありましたが、信玄公役をこういう方という決め方は特にしておりません。

今回は角田さんのほうから笛吹市に貢献したいというようなお話がありましたので、お願いをしたという次第です。

その時々に応じて、素晴らしい方などからお声がかかればその方にお願ひしますし、議長がやりたいとおっしゃれば、今まで議長もやられていたので、来年は議長にお願ひするといったことがあるかもしれません。

その辺は、また今年状況を見ていろいろ考えていきたいと思います。

■記者

ありがとうございます。

武田信玄公を務めることに関する角田さんからのコメントなどはいただいていますか。

■市長

コメントは特にありませんが、大変喜んでおられます。

山梨にお見えになったときに一度お会いしており、その時にお話をさせていただきましたが、ご本人は「大変光栄なことなので、一生懸命やらせていただきます。」とおっしゃっていました。

■記者

ありがとうございます。

■記者

先ほどの議案の説明の中の、笛吹市青楓美術館条例についてですが、観覧料の責任者を市長に改められましたが、今まではどなただったのでしょうか。

■市長

今までは教育委員会でした。

■記者

教育長ですか。

■市長

違います。教育委員会になっていました。

教育長ではなく、教育委員会がいわゆる徴収の責任者になっておりました。

それではおかしいのではないかとということで、市長である私が徴収の責任者になりました。

■記者

市の他の施設で、例えば、教育委員会が責任者になっている施設などありますか。

あるいは他の自治体の事例などありますか。

■総務課長

通常、市の公共施設で使用料等を徴収する場合は、市長が徴収することになっています。

■記者

そうですね。

その点が気になりましたのは、青楓美術館に関して、市が春日居郷土館への統合という方針を数年前に示したことに對し、市民から反対の動きも出ておりますが、現時点で市長はこの件についてどのように考えているのか教えてください。

■市長

何か決まったかような報道をされていますが、特に何も決まっています。

ただ、市としましては個別施設計画を作ったときに、合併していただきたいというような方向性の計画を作ったわけです。今、その案件について運営協議会の方々と話し合いをして、ご意見を伺っているところです。なので、もう合併することが決まっているのでこうしてくださいといったことは一言も言っておりません。

ただ、この青楓美術館に関しましてはかなり歴史が長いです。正直申しまして、初代市長のときから、青楓美術館のあり方についてかなりいろいろ協議はされてきました。

私が就任してからも青楓さんは大変人気でして、私が承知しているだけでも練馬、渋谷、新宿と3ヶ所からお声がかかり特別個展を開いています。

今の場所に置いておくのは非常に保管状況が良くないので、場所を変えて保管し、少しでも青楓さんの作品を一般の方に広く見ていただくことはできないだろうか、その時に我々としてみますと、新しい博物館や美術館を作るといのはお金のかかることですので、今ある春日居郷土館をリニューアルするタイミングで一緒に展示するという格好が取れませんか、というお話をさせていただいているところです。

なので、もう決まっていることを強引に進めているという話ではないです。

ただ、我々としたしましては、計画にこういうことがありますから、是非ともいかがでしょうかというお話をさせていただいており、今はその段階であります。

■記者

先ほど市長は歴史があるとおっしゃいましたが、青楓美術館の歴史は一宮町時代からあると思います。複数の自治体が合併して今の笛吹市になりましたけれども、地元の方々の思い入れがあると思います。その点を市長はどのように考えていますか。

■市長

その点につきましては、もう十分理解しております。

確かにその地元の方々の思い入れも分かりますが、一つ言えることは、我々も合併して来年で20年になります。地域の気持ちも分かりますが、やはり笛吹市としてどう考えていくのかという話になっていかなければいけないと思っています。

確かに、青楓美術館の作品は一宮町時代からいただいたものですし、作者の思いなども分かります。その素晴らしい作品を笛吹市という少しでも大きなステージで多くの皆さんに見ていただけるように環境整備ができないでしょうかという話をさせていただいており、取り上げてしまいましょうということでは決してありません。そこに携わっている方々にも運営委員になっていただいて、これからも青楓さんをいろんな形で支えていただけるメンバーに是非ともなっていただきたいと思います。

そういったお話を教育委員会もさせていただいていると思いますが、なかなかそれが思うようにいってないというのが実際のところですね。正直申し上げて、平行線をずっとたどっているという感じで、少しフリーズ状態になっておりますので、どのような形がいいのか、再度、教育委員会との検討の場を設けたほうがいいのではないかと考えています。

■記者

ありがとうございます。

■市長

ちなみに、青楓美術館に行かれたことはありますか。

■記者

はい。素晴らしい美術館です。

■市長

そうですね。

ただ、施設は個人のお宅で建てられているので個人の財産になります。その辺も非常に難しいところではあります。

笛吹市には穴山勝堂さんという方もおり、その方だったら御坂町で作れば良いと言われてしまう。青楓さんだけを特別にして、「一宮町だからそこにお金を投入します。」では難しい話になります。石和町には小林中さんがおりますし、我々としましてはフラットなところに皆さんの作品を集めて、今後は穴山さんの作品もあったり、青楓さんの作品もあったりする特別展などのような形で開催したいと思っており、そうしますと、やはりしっかりした形で保管していきたいという思いがあります。

■記者

今現在、笛吹市内で計画されている多目的芝生グラウンドの整備についてですが、住民説明会に出席者された市民の方から、子供たちのために早く整備してほしいといった意見が出た一方で、やはりその費用が膨大過ぎるという意見や、農地が減ってしまうのではないかとといった意見が出ましたが、改めて市長の考えをお聞きします。

■市長

人工の芝生グラウンドを作りましょうということは、みんなの共通認識だと思っています。ただ、その部分で将来を見定めてやっていこうとしているのか、それとも、言葉は悪いですが、とにかくいいからちょこちょこっと作ってしまえといったような、考え方の違いではないかと思っています。やはりここでしっかりした、いいものを作っていく必要があると思います。

なぜか、多目的芝生グラウンドの利用がサッカーだけだと思っている方もいらっしゃると思いますが、サッカーだけではなく、ラグビーなど他にもたくさんあることを知っていただき、私のイメージとしては、日中はグラウンドゴルフやゲートボールをやる人たちに大いに使っていただき、夕方からは小学生、中学生、高校生が使い、夜は社会人の人たちが使用するというイメージであります。

いろんな効率を考えたり、また、大きな大会などいろんなことに効率よく使っていただくとすれば、点在しているより1ヶ所に作った方がいろんな部分で効率もいいですし、いろんな形で使いやすくなると思っています。

財源の問題に関しましては、私が就任してから7年間で122億円の借金を減らしました。また、30億円の基金を積み立てさせていただきました。

これは職員による行政改革というのもそうですが、やはり、ふるさと納税寄附金が大きな力になっています。

笛吹市はふるさと納税寄附金をまちづくり基金として積み立てており、市の大きな起爆剤というわけではありませんが、前進させるような事業に使っていきましようということで、しっかり積み立てをしています。

今行っている事業の中では、学校施設整備などがまちづくり基金を充てている事業になります。合併特例債は当然ありませんが、合併特例債と変わらないくらいの事業をさせていただけるのは、そういった基金の積み立てが大きいと思います。

ふるさと納税寄附金を基金に積み立てることを条例に定めておりますので、しっかり積み立てて大きな事業を行ってきましようという、そういった事業の流れの一環だということをご理解していただきたいと思います。

決して借金で作るといったことではなく、しっかり積み立てた基金で計画的に事業を行っていくというものです。

■記者

計画に関連してですが、参加者の中には施設自体の収益などで採算がとれるのか、というようなことを勘違いされていた方もいらっしゃると思います。また、計画が「ざる」ではないかという厳しいお言葉もありましたが、そもそもグラウンドであり商業施設ではないので、そこに人を集めて、そこからの関連で市内のインバウンド的なものを目指そうということだと私は思いますけれども、改めて市長の言葉で、観光・笛吹市の一つの産業である観光との結びつきですとか、市内に来てもらうことによって信玄餅を買っていただくとか、そういったことを基にした経済の発展や収益といったことに繋がることを、石川県の例も含めて視察に行かれたと思いますが、その点をお聞きしたいと思います。

■市長

私もできるだけ自分の思いをあえて紙に書き、説明会で発表させていただきました。

笛吹市、今残念ながら20年前に合併したときから人口が5000人減少しており、中学生の数も合併当時2000人でしたが、現在は約1500人で500人も中学生が減りました。中学生云々ということではなく、今山梨県はどちらかと言えば甲府市から西の方に若い人たちの目は向いています。これはもう人口の推移を見れば分かります。

甲斐市は現在7万6000人もいます。残念ながら、笛吹市を含めてこの峡東は減少していく一方です。

今後は、若い人たちに選ばれる地域というものを作らないと人口減少がますます進んでいきます。

その中で笛吹市ってどんなところだろうとなった時に、「農業と観光は分かりました。それだけですか?」、大きい商業施設があるのがいいのか、若い人たちにどう選ばれるのか、交通網が良くなったからその地域を選んでいるのかそれは分かりませんが、やはり若い人たちにまずは来てもらわないと話にならないと思います。

来たこともないところに住んでみようと言う人はいないと思いますので、若い世代の方がここで何かスポーツをやり、そういったことから「この地域はいいところだな。」「思い入れのあるところだから住んでみよう。」といった話になっていかなければなかなか厳しいのではないかと考えております。

その一つの起爆剤として、私はスポーツというものを少し押し出していきたいと思っており、その一つの要素が今回の多目的芝生グラウンドになります。

また、400mトラックの話も出ていますから、そういうこともやっていこうと思っておりますし、今ある既存のグラウンドを専門性の高いグラウンドに変えていこうということも計画しています。あくまでもサッカーだけのグラウンドを作ろうという話ではないです。

今、子供たちが少子化になり、施設整備というものが非常に重要視されています。

それはなぜかと言うと、みんなどこへ行っても立派な施設で練習しています。結局、芝生グラウンドで練習をするとなるとお月謝を支払わないといけないという話になりますし、クラブチームに行ったりすることになります。それをこの地元で、スポーツ少年団や中学校、高校の指導者が一生懸命教えることができれば良く、その環境を作ってあげれば外に行かないのではないかとそのように思いますし、私はそういうことを狙っています。

ですからそれは、高校の指導者も中学校の指導者もスポーツ少年団の指導者も共通認識でおりますので、みんなそこに集まってくるという思いがあります。

確かに上手な子はもっと高い技術のところに行くのかもしれませんが、やはり今いる地域の子どもたちを一生懸命育てていくために、ラグビーにしても、サッカーにしても、陸上にしても、ソフトボールにしても、そういう子どもたちが一生懸命この地域で、他の施設に負けないぐらいの施設を持ってやれば、わざわざ甲府市などいろいろなところに行かなくて済むのではないかと考えています。

指導者の方々も一生懸命でやる気満々です。ですから、中学校の部活の休日における地域への移行なんかも当然のごとく、地域の方々にご協力いただきながら、また学校の先生にもご協力いただきながらやっていこうと思っております。

■記者

先進事例といたしますか、それでうまくいっているというふうに聞いた石川県のお話をお伺いしたいです。

■市長

正直サッカーグラウンドの計画を作るときに、いろいろなところを視察いたしました。

Jヴィレッジから始まり、そして石川県の和倉温泉のところにあります3面など、いろいろなところを視察し、人工芝のメーカーによっても全然違うということも分かりました。

とにかく見させていただいてびっくりしましたのが、温泉街にあるということで、スパイクを持ってリュックを背負ったたくさん子ども達が練習場へ行くわけです。ちなみに、そこは星稜高校の川崎さんという立派な監督が仕掛けた部分もありますが3面あり、石川県の輪島市の方にも橋を渡れば2面ほどあるらしいのですが、夏休みはずっと試合をやっています。しかもカテゴリを全部分けており、この高校だったらこのカテゴリ、この高校だったらこのカテゴリと、ややもすれば選手権よりハードな試合をやっているのではないかと、うーん、有名校が集まりいいチーム同士で試合をやっています。

当然のごとく石川県は雪のたくさん降るところですから、冬は当然できませんけれど、夏は本当にびっくりするぐらいたくさん来ています。静岡県の時之栖グラウンドも見させていただきましたが、時之栖ではカップ戦を山のようにやっており、そこは完全に民間でやっていますが、地域の活性化ということに大いに資するものだというように思っています。地域の子どもたちを一生懸命地域で育てているという、そういったことにも大きく寄与するものだと思っています。

現在、ゲートボールやグラウンドゴルフの方々からは、関東大会や、県外での試合は全て人

工芝でやるんだと、笛吹市には一つもないじゃないか、峡東にも一つもないじゃないかいうことで、芝生グラウンドについて大変なご要望を受けています。そういうことも含めながら、ただ単にサッカーだけということではなくて、この峡東地域に芝生グラウンドが一つもないわけですから、いわゆる笛吹市は峡東でも人口が一番多く、予算が一番多い地域でありますので、笛吹市が先頭に立ってこの峡東地域を引っ張っていくということも我々の使命ではないかと思っています。
そのような思いも含めて計画をさせていただきます。

以上